第 2015-24 号

恵みと真理のニュース

2015 年 6 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 私の魂を新たにして、私の産業を盛んで下さり主の事に献身する楽しむと幸せを下さった神様を賛美しま

３代目にかけてカトリックを信じる家庭で６男１女の中で５番目で生まれました。子供の頃は洗礼を受けて小学校のときには学校がおわったら教会に行ってずっと遊びました。父は労働で家族の生計を立てました。育成会費を払わなくて学校から追い出された時もあって冬には家族みんながすいとんで飢えをしのぐほど家庭の状況が大変でした。中高等学生の頃はもっと辛い時期でした。新聞配達でいつも寝不足と飢えと戦いました。家族すべてが熱心に生きようとしましたがなかなか大変で心の中には不平がいっぱいでした。
青年になっても学ばなくて体がで苦労する職業するしかなかったし、現場でよく徹夜をして寝不足と飢えと戦いました。体重が減ってある日から血を吐き始めました。結核３期の病気にかかりました。その時が1979年の冬でした。死の恐れを抱いて初めて切に真の神様を探し祈りました。神様は生きておられるなら私を助けてください。これから熱心に神様を信じて生ると涙を流しながら祈りました。嘘のように驚くな神様の治療の恵みが望まれ病魔が退かれ完治されました。しかし、私の信仰の決心はその時だけで相変わらず神様を考えなくて生活を続けました。私の考えのとおり世の中で生きながら私の力と意志で環境を変えようと身を砕きました。結婚をしたら子供達には一日3回は暖かいご飯を食べさせて教えると思って絶え間なく努力しました。
1986年教会に熱心に通う今の妻を出会って付き合いました。しかし、二人で結婚するには信仰が問題でした。教会に通うことを強く主張する妻を説得して結婚する条件で初めの年は私の思い通りカトリック教会に行って次の年には妻のとおり教会に通って3年目になって共に通うところを最終的に決めようとして新婚生活をしました。しかし、私はあらかじめ3年にどこに行くか決めました。そして教会に行くと約束した年には様々な言い訳をして妻の目から涙が止まらなくなりました。新婚の頃妻に迫害して心を苦労をさせて今は妻の涙がもう出ない状態です。
　アンサンの住宅で家を借りて住んでいるときに長男が家主の部屋にヨチヨチ歩いて入ったら家主が早くドアを閉めて追い出すことを見ました。その事で泣いている息子を胸に抱いて引越しを決心しました。必ず一つの部屋を探すために足りないお金を集めるため周りの人々に願いましたが無駄でした。そうするうちに恵みと真理教会に通う執事が引越しをするように助けてくださいました。親戚もないのに私のことのように祈り助ける姿に感動を受けました。カトリックに通いながらもイエス様を信じると言いながらもお酒とタバコに慣れている家族の生活と比較されました。執事と妻をついて私もアンヤン聖殿に通いはじめました。初め教会に行って上の空で礼拝を捧げ当会長の牧師の説教を聞き流しました。ある日、ヤコプの生涯関する御言葉とどら息子の比喩をした話をきいて真に悟り悔い改めました。牧師の説教のみ言葉がまるで神様が私一人のため与える御言葉と聞こえました。以前の教会で洗礼名がヤコプでした。今になって自分中心から神様の中心で私の人生が変化されました。
毎週アンサンからアンヤン聖殿を行き来しながら金曜礼拝を休まなく参席しました。区域礼拝と男性団合礼拝も熱心に参席しました。そうするうちに一時期私が考えて期待するほど信仰が成長しませんでした。それで21日間期間を決めて祈りを始めました。主を信じるといると告白はしましたが体験を通して強い信仰を持つのを願って断食祈りも始めました。しかし、祈りを始めて20日が経ってもどんな変化もありませんでした。最後の日にやっぱりそうだと思って寝ましたが朝驚くな夢を受けたら、幻の中でイエス様が十字架をもって日を流しながらゴルゴだ丘に登る姿が見えて“わたしが　あなたを救いあなたを選びと神様の実声が聞こえました”という神様の御声が聞こえました。その音声が私の心に響いて神様に膝をまずいで主に祈りました。．ただ恵みと信仰で救われる事を深く悟ったあと多くの体験を通してもっと生きておられる神様を畏れ熱心に神様を支えるようになりました。特に職場で様々な苦難が神様の恵みで回復する多くの体験をしました。何年前は誰よりも心と体を尽くして働いた会社から追い出され辞めなければならなかったです。初めは会社のせいだど恨みました。どころが時間が経ってよく考えるとここにも神様の摂理と導きがありました。
　私は神様に祈った後決断をして射出機何台で事業を始めました。危機のたびに神様は知恵と力を下さり道を開いて助ける人を与えてくださいました。そして射出機が30台が超え100人が超える職場で発展しました。細密金型射出製造分野で国内外で認定を受ける成長するまで至りました。グロバル金融危機の状況でも成長しました。“ 過去のあなたは小さなものであったが／未来のあなたは非常に大きくなるであろう。”（ヨブ記８：７）神様の御言葉のとおりなりました。そして会社と職分を通してもっと福音を伝えることが出来ました。
今まで相変わらず愛し教会を愛し支えてきた私に神様は長老の職分をくださいました。感謝します。宗教多元主義と 世俗化の波にのまれず聖書のとおり福音だけを伝える教会、恵みと賜物のとおり聖徒達がお互いに支える教会が誇りとします。ただ御言葉と聖霊の権能でリバイバルする教会が真に誇らしいです。また、男性区域長、聖歌隊員などで奉仕する全ての職分が大事で世の中から得られない神霊なやりがいがあります。妻と子供達も教会で担えている奉仕に忠誠しています。このように家族が教会中心で神様中心で生活をするのでこれより幸せで感謝する事はないです。世にうらやましい事がありません。神様に全ての栄光を捧げます。主が来られる日まで相変わらず最善を尽くして教会と聖徒を仕え熱心に不信者に福音を伝えます。

［信仰コラム］ 理想的 生の見習う

″… エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった″(創世記 5 ： 21～24)

　旧約聖書の創世記 5 章にはアダムから始めてノア以前までの族長の系譜が記録されています。 これらに関する記録はほとんど同じな形式で名前、息子を生む時の年、その後享受した生涯の期間そして死ぬ時の年を明らかにすることになっています。 しかしエノクの場合は例外です。 ″神様とお供して″という独特の表現が使われた一方 ″死んだ″と言う表現がないです。 これは彼の生涯が平凡な中に非凡であったことを現わしています。 エノクに関して聖書に記録された分量は少ないがその内容は私たちに奥深い教訓と深い感銘を与えるに十分です。

第一に、エノクは神様とお供しました。

　人が神様とお供しようとすれば まず神様の御旨を分別しなければなりません。 エノクはアダムから伝授されて来た神霊な知識を持ったはずで、神様の御旨を分別する力をつくす彼に神様が親しくおっしゃったはずです。 また神様の御旨が分かるのみならず神様の御旨を受け入れなければなりません。 神様の御旨に逆う自分の意と主張と固執を否認を出なければなりません。 私たちは神様の御旨が分からなければならないし、その御旨に順応しなければならないし、神様の御旨に先に進まなくて劣らなくて神様とお供しながら進まなければなりません。 エノクはメトセラを生んだ後神様とお供する信仰生活をするようになりました。 家庭を成して子を扶養する重い責任を負うようになりながら神様を近付けるようになったのです。 手に負えない用事ができたそのものは不幸ではないです。 エノクのようにそれによって神様をもっと近付けたらむしろそのすべての事が有益になって福になります。

二番目で、エノクは神様が必ずいらっしゃったことと賞をあたえる方を信じました。

　エノクは神様の存在を信じるのみならず事毎に神様が一緒にいるのを信じました。 無所不在なさった神様の偏在性を知ることと神様が今こちらに私と一緒にいるのを意識することとは差があります。 またエノクは神様が彼を探す者等に賞をあたえるかたであるということを信じました。 神様を探すということは神様に求めて頼ることを意味します。 神様は私たちの求めることに良いことでくださりながらあふれるようにくださると聖書に記録されています。 神様が必ずいらっしゃったこととまた自分を探す者等に賞をあたえる方を信じて生きて行く時これは神様を嬉しくします。

三番目で、エノクは不敬虔するように生きて行く人々に神様の再臨と審判があるのを伝えました。

　ノアの時に急に人の罪悪が貫盈されたのではなくエノクの時代にもう世界中は神様をそむくようになったし敬虔な生活をする者等を見にくくなりました。 そしてエノクは人々の不敬虔した行為を叱って神様の審判を警告しました。 イエスキリストの再臨と審判を予言的に宣布したりしました。 その成果があまり大きくならなくて彼の使役はさびしくて大変でした。 しかしエノクは人々に対する あせらして愛と熱情を持って敬虔に暮しなさいという神様のお話を叫びました。

四番目で、エノクは神様とお供している途中死をむかわないで神様の国に移しました。

　他の族長に比べてエノクは地上で住んだ年が非常に短かったです。 しかし他の族長をうらやむ理由が全然ないです。 死を見ないであの向こう側の世界に移したからです。 神様はエノクを通じてたまらなさからの自由と永生を予告してくださってこれと同時に神様の国がこの世の中の以外にほかに尊在を立証してくださいました。 聖徒はエノクのように死を経験しないであの向こう側の世界に移すことではないがイエスキリストを信じて死亡から生命に移されて必ず神様の国に移すようになります。皆さんは神様が私たちに理想的な生の見習うことに提示したこのエノクのように生きて行ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私を離れては何もできない

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

〝イエス様を離れては何もできない〝と言うお言葉に対して人々の反応は一致しないです。イエス様を信じる方々は当たり前のお言葉で思うでしょう。 一方　非キリスチャンはあざ笑って反撥するでしょう。 人々の反応はどうでもこのお言葉が確固不動した真理という事実は変わりがないです。 今日はこのお言葉の意味をよく見ます　イエスキリストが〝わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。〝と言ったお言葉はイエス様と係わって多くの部類の人がいるのを言ってくれます。

第一部類は、イエス様に対して聞くことができなくて分かることがないとかイエス様信じるのを拒否する人々です。こんな人々はイエス様と無関係な人々でイエス様を離れている人々です。

二番目部類は、自分はキリスチャンであると思うが聖書のどおりイエス様を信じないで自分の願いとおりに信じる人々です。 キリスチャンと言うのはイエス様を尊敬して欽慕して彼の教訓を道徳的、倫理的な規範にして善良な事に力をつくして精神的な修養をはかって心の平安を得る力をつくす人々であると思う人々がいます。 このような誤った認識を捨てない以上はその人が教会に出席して教人の義務を果たすと言ってもイエス様とは何らの関連がないです。
三番目部類は、イエス様と不可分の関係にある人々です。 イエス様はこんな関係を私たちがイエス様にあったことしてイエス様の中にあったことで形容しました。 そしてぶどうの木と枝の関係として説明しました。 イエス様は〝私はまことのぶどう木だ〝とおっしゃって,〝私はぶどう木ですあなたがたは枝だから〝とおっしゃいました。 すべての人が本性では罪と偽りと不意でいっぱいになります。 だから石のぶどうの木です。 石のぶどうの木がまことのぶどうの木のそばに植えておくとまことのぶどうの木にならないです。 本質が変化されなければなりません。
本質が変化されようとすれば石のぶどうの木がまことのぶどうの木で接ぎ木をされなければなりません。 このためには自分が罪人という事実と罪人は神様の震怒と審判を受けて地獄の刑罰に処することになるということを悟らなければなりません。 私たちの罪を代わりに担当して十字架に釘付けられて死なれ三日ぶりに復活したイエス様を自分の救世主に信じて迎接しなければなりません。 そんなにすれば聖霊がまことのぶどうの木であるイエス様に接ぎ木になって枝にならせます。 イエス様がくださる新しい命が私たちに入って来て神秘的な連合が成り立つのでイエス様と不可分の関係にならせます。 誰でもイエス様を救世主に信じて迎接すれば自分がイエス様にあってイエス様が自分の中に生きる神秘的連合が成り立ちます。

人に与えられた一番重大な課題はイエス様との関係です。 イエス様とのただし関係は罪と死亡と地獄の問題を解決受けさせるからです。〝わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである〝というのはイエス様のお言葉は私たちがどんな意識を持って暮さなければならないはずなのかを明示しています。

第一、“私を離れては” という言葉は “イエスキリストの恵みを離れては” という御旨があります。

すべての人は罪の意識があります。 アダムの犯罪ですべての人が罪人になったからこのような罪の意識があるのです。 神様を離れて人本主義で生きて行く人生は罪と罪責を人間の方法で解決することができるという妄想に落ちています。 中世の宗教改革者マルチンルターは元々カトリック教会の修道士でした。彼はローマを訪問した時ラデランという宮殿の石段を膝とヒジで 這って上がり始めました。 そうすると罪の赦しを受けるという教えのことに従ったのです。 彼が何階段を這い上がっている時〝信仰による義人は生きる〝と言う聖書句節が彼の心霊の中に響きました。 その瞬間ルターはむっくり起きて階段を歩いて下りました。 人が義のあるようになることが行為によらないでただイエスキリストの恵みになるという真理が彼の心霊を明るく照らしたのです。 イエスキリストが私たちの罪をあがないしました。 そしてこれを信じるすべての者を義人にならせます。 これがイエスキリストの恵みです。 イエス様を離れては私が何もできないということを悟ることができなければイエスキリストの恵みを受け入れないです。 イエスキリストを離れても私が義のあるようになることができると思う以上、罪と呪いから脱することができないし審判と永遠な滅亡を免れることができないです。枝が木に付いて津液をもらうので命を得ることになるように私たちはイエスキリストがくださる恵みを受ければこそ義のあるようになります。
私たちが信仰と所望と愛で生きて行くことも神様の恵みが臨んで可能なのです。 患難と逼迫と誘惑を耐えて乗り越えることも神様の恵みが臨んで可能なのです。 イエスキリストの恵みを離ればまるで魚が水を去ったことと一緒になります。 使徒パウロは言うのを〝しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。〝（コリント人への第一の手紙, 15:10）としました。

第二,〝私を離れては〝という言葉は〝神様の御旨を離れては〝という意味があります。

私たちがある問題に会えば先に思うのがあります。 現実状況がどうか、私がこれを手におえる能力のあるかと言うのです。もちろんこのような　いくつかの点を充分に考慮しなければなりません。 しかしそれよりまずされなければならないことは神様の御旨が何か尋ねるのです。 神様が願ったら状況や私たちの能力は問題になることがないです。 聖書にこのような原則を教訓する事件が記録されています。

士師の時代にあった事です。 イスラエル子孫が偶像を仕える罪を犯すので神様が懲罰して七年の間に彼らをミディアンの手に越しました。これによって経済的にひどい困境に処するようになるとイスラエル民が神様に叫びました。神様が彼らをあわれんに思ってギデオンを士師で選びました。 ギデオンは自分の能力がないのを訴えて標蹟と奇蹟を見せてくれるのを要求しました。 神様が奇蹟を見せてくれるとギデオンは心を定めました。 その後ギデオンは神様の御旨をもっとはっきりと分かること願ってまた標蹟を求めました。 神様はギデオンの願いとおりに一度は打作庭先に残した羊毛にだけ露があって地は皆乾かせたし一度は羊毛は乾いて地の上にだけ露があらせました。 こういうわけでギデオンは自分が士師になることが神様の御旨を確かに分かるようになったしミディアンを打って勝つのが神様の御旨が分かりました。ギデオンが軍人を募集したら 3 万 2 千人が募集に応じました。 神様が軍人数があまりにも多いとなさりながら二度の選別をさせて残った軍人がわずか 3 百人でした。 しかしギデオンは荒てなかったです。 勝利は数字や武器にないで神様の御旨にあるのが分かったからです。そしてギデオンは 3 百名の勇士を連れて 13 万 5 千名の敵軍を奇襲して大きい勝利を得ました。
イエス様が荒野でお言葉を証拠なさる時あった事です。 人々はイエス様のお言葉に凝って時間が経つとは思わなかったです。 一日中何も食べることができなかったままでした。 イエスキリストが弟子を呼んで “あなたがたが彼らに食べ物を与え。” しました。 すると弟子は荒てました。 “イエス様、男だけ五千人です。 パンとは一つもないです。 パンを買うお金もないです。 だから群衆を散らして早く家に行かせるのが上策です。” と報告しました。 その時弟子の中にアンドレがパン五つと魚二匹を幼い子供から提供受けて持って来ました。 キリストがパン五つと魚二匹を手に上げて天を仰いで感謝して祝福なさいました。 そして弟子に分けてやったし弟子は群れに分けて与えました。 驚くべきことに五千人がすべて腹一杯食べ残したのを取ったから１２かごに一杯でした。 この事件が教訓することが何ですか? 彼らが直面した状況より弟子の能力よりもっと重大なことは神様の御旨がとこにあるかです　神様が食べ物を与えなさいという御旨を表明した以上、問題は解決されるものと決まっています。
“私を離れてはあなたがたが何もできない” と言うお言葉には神様の御旨を無視して行うことはむだになってしまうという教訓があります。状況や能力よりもっと重要なことは神様の御旨が分かってその御旨に従って行うのです。“私を離れてはあなたがたが何もできない” と言うお言葉は “イエス様にあってあなたがたがすべてのことができる” と言うお話です。

一緒に読みます。 “私はぶどう木と枝のようにイエス様と不可分の関係にあります。” “神様の恵みを離れては私が何もできないです。しかし神様の恵みの中では私がすべてのものができます。” “神様の御旨を離れては私が何もできないです。 しかし神様の御旨の中では私がすべてのものができます。” 皆さんはこの真理を徹頭徹尾に適用して生活化するように願いします。